

2011年10月28日

2012年3月期 第2四半期 決算説明会

代表取締役社長
久芳 徹夫

京セラ株式会社

本日の説明内容

1. 2012年3月期 上期 決算概要

2. 2012年3月期 通期業績予想

1. 2012年3月期 上期 決算概要

2012年3月期 上期 決算概要（前年同期比）

（単位：億円）

	2011年3月期 上期		2012年3月期 上期		増 減	
	金 額	売上高比 (%)	金 額	売上高比 (%)	金 額	率 (%)
売 上 高	6,374	100.0	6,043	100.0	-331	-5.2
営 業 利 益	818	12.8	678	11.2	-140	-17.1
税引前四半期純利益	895	14.0	756	12.5	-139	-15.6
当社株主に帰属する 四半期純利益	620	9.7	468	7.7	-152	-24.5
希薄化後1株当たり当社株主に 帰属する四半期純利益(円)	337.62	—	254.93	—	—	—
設 備 投 資 額	327	5.1	345	5.7	18	5.6
減 価 償 却 費	268	4.2	290	4.8	22	8.2
研 究 開 発 費	235	3.7	237	3.9	2	0.9

2012年3月期 上期 決算要約（前年同期比）

1. デジタルコンシューマ機器市場での需要鈍化

携帯電話端末をはじめ、各種機器の需要の伸び悩み

2. ソーラーエネルギー市場の環境悪化

欧州市場での需要低迷及び世界的な製品価格の大幅下落

3. 円高の影響

		2011年3月期 上期	2012年3月期 上期
平均為替レート	対 ド ル	89円	80円
	対 ユ ー ロ	114円	114円

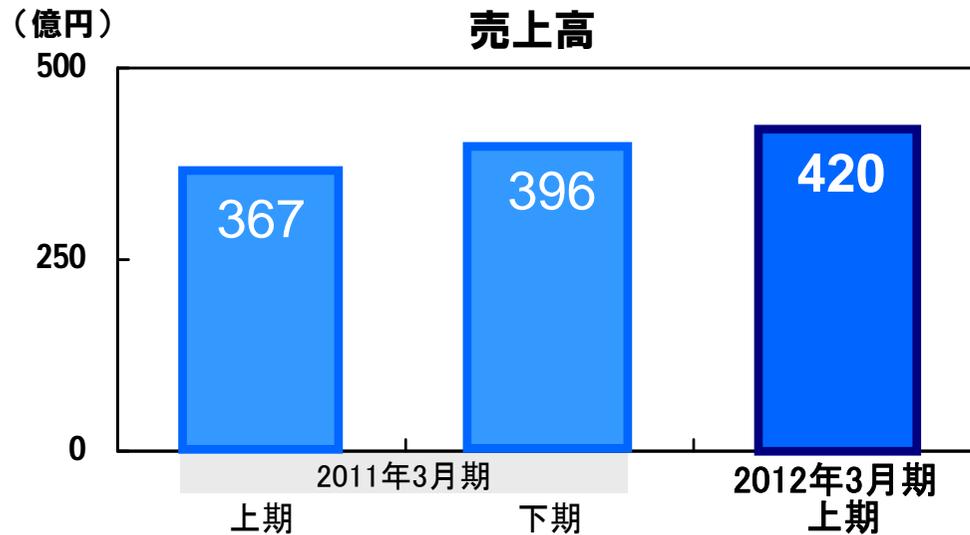
➤ 為替変動による影響額（前年同期比）

売上高： 約-230億円

税引前四半期純利益： 約 -55億円

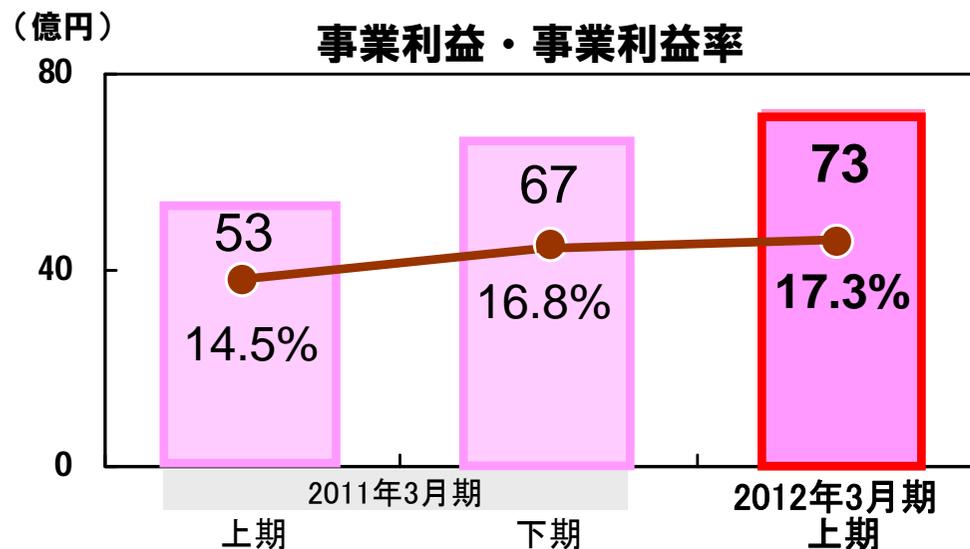
2012年3月期 上期 セグメント別業績推移

ファインセラミック部品関連事業



2012年3月期 上期実績

	対2011年3月期増減	
	上期比	下期比
売上高	+53億円	+24億円
事業利益	+20億円	+6億円



業績概況

- LED関連市場に加え、一般産業市場向けに部品需要が増加したことにより、売上高、事業利益ともに前期上期より堅調に増加



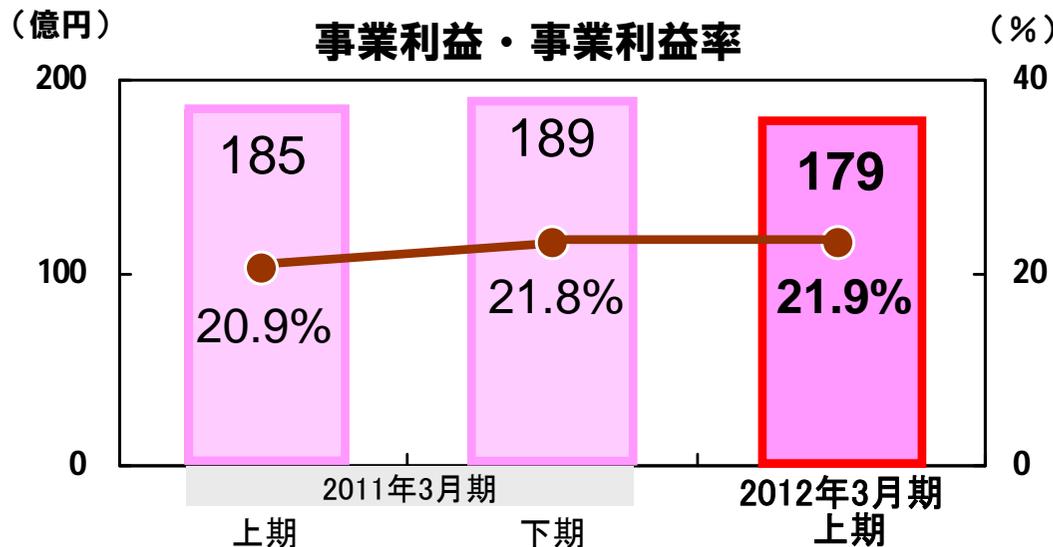
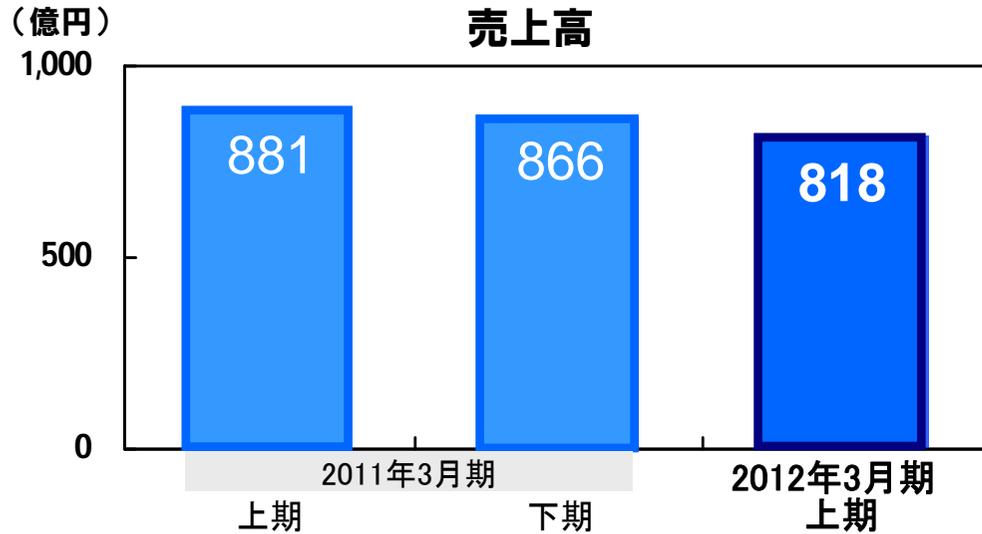
サファイア基板



半導体製造装置用部品

2012年3月期 上期 セグメント別業績推移

半導体部品関連事業

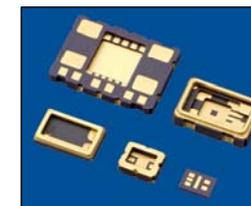


2012年3月期 上期実績

	対2011年3月期増減	
	上期比	下期比
売上高	-63億円	-48億円
事業利益	-6億円	-10億円

業績概況

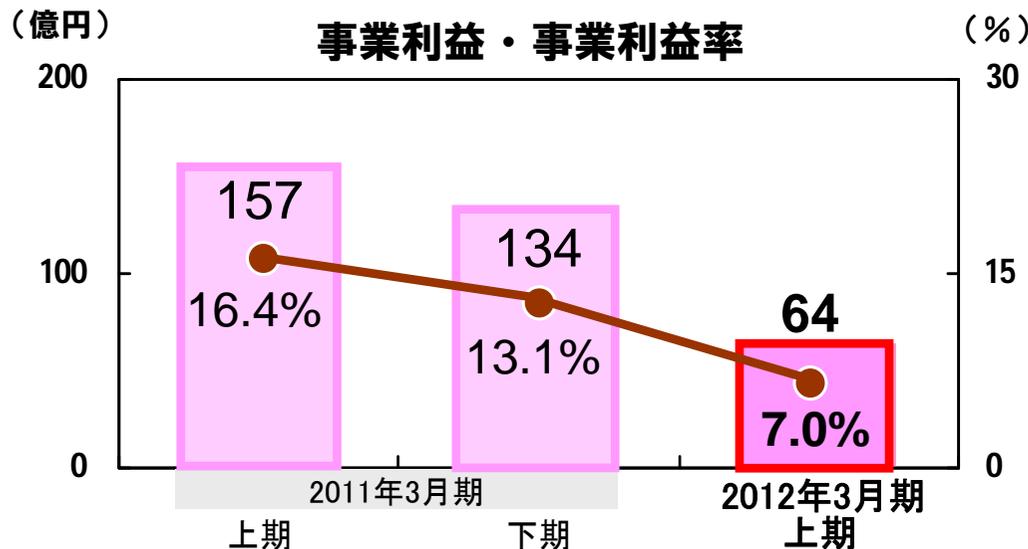
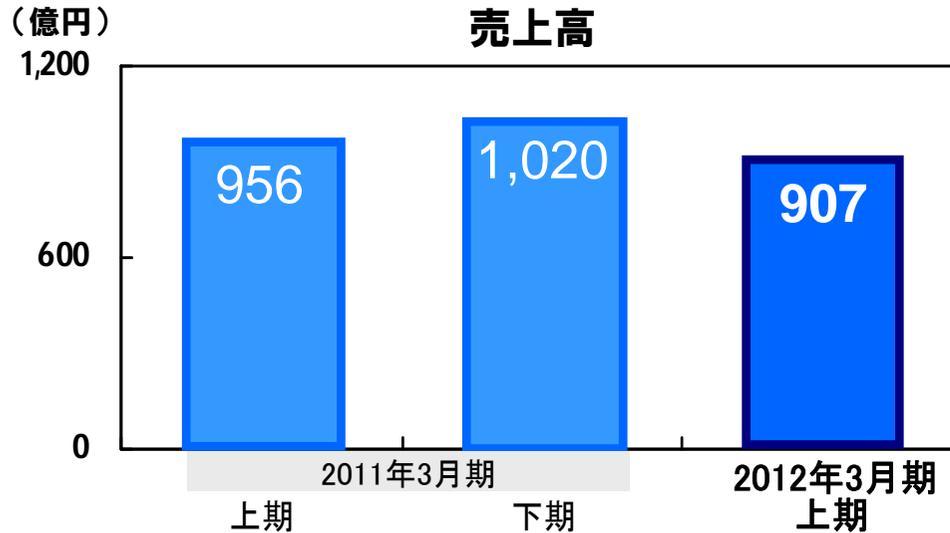
- デジタルコンシューマ機器向けの部品需要の伸び悩みを受け、売上高は前期上期より緩やかに減少
- 円高の影響はあったものの、原価低減や生産性の向上等により、事業利益率は前期下期と同水準を確保



水晶/SAWデバイス用セラミックパッケージ

2012年3月期 上期 セグメント別業績推移

ファインセラミック応用品関連事業



2012年3月期 上期実績

	対2011年3月期増減	
	上期比	下期比
売上高	-49億円	-113億円
事業利益	-93億円	-70億円

業績概況

- 機械工具事業は堅調に推移したものの、ソーラーエネルギー事業における欧州市場での需要低迷や製品価格の大幅な下落により、売上高及び事業利益は減少



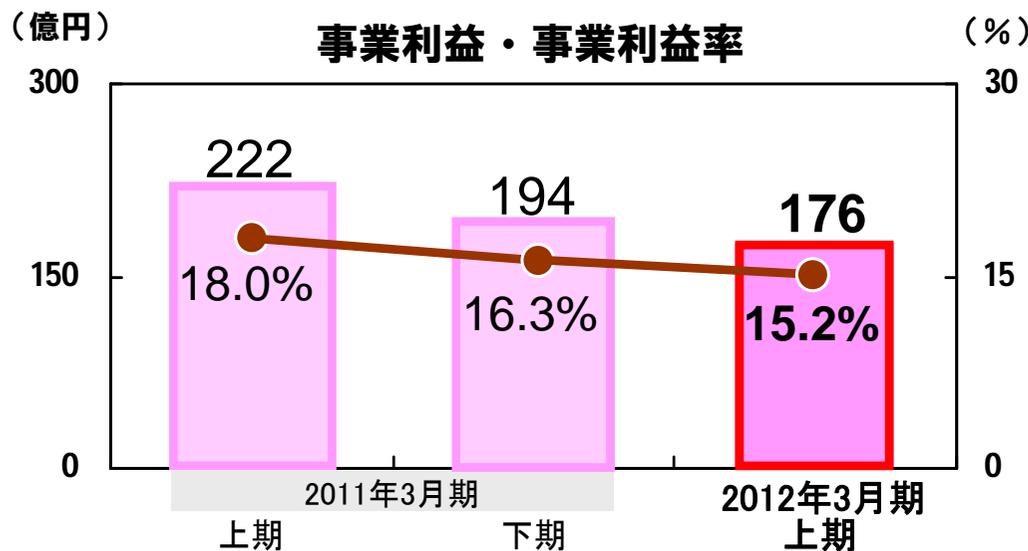
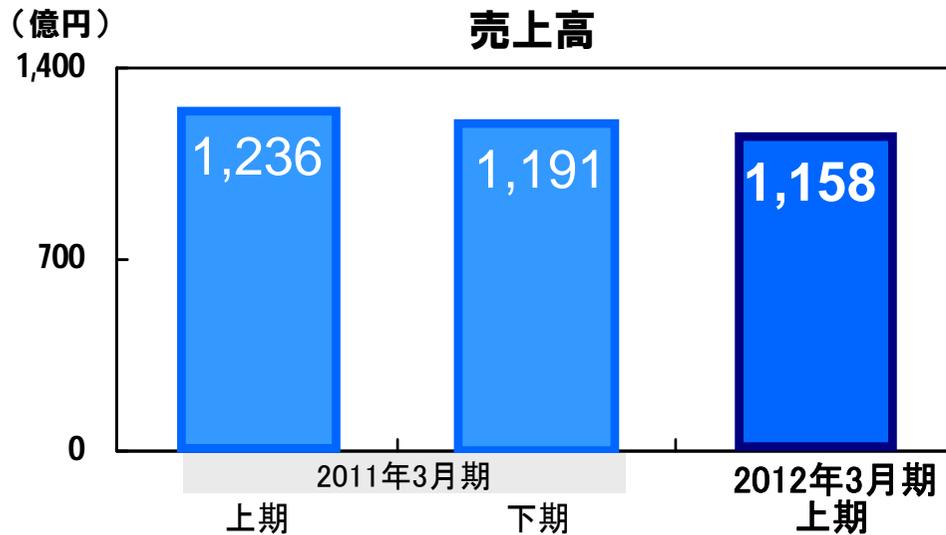
機械工具



住宅用太陽電池

2012年3月期 上期 セグメント別業績推移

電子デバイス関連事業

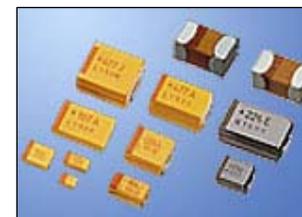


2012年3月期 上期実績

	対2011年3月期増減	
	上期比	下期比
売上高	-78億円	-33億円
事業利益	-46億円	-18億円

業績概況

- デジタルコンシューマ機器向けの部品需要の伸び悩みや円高の影響、原材料価格の高騰等により、売上高、事業利益ともに前期上期より緩やかに減少



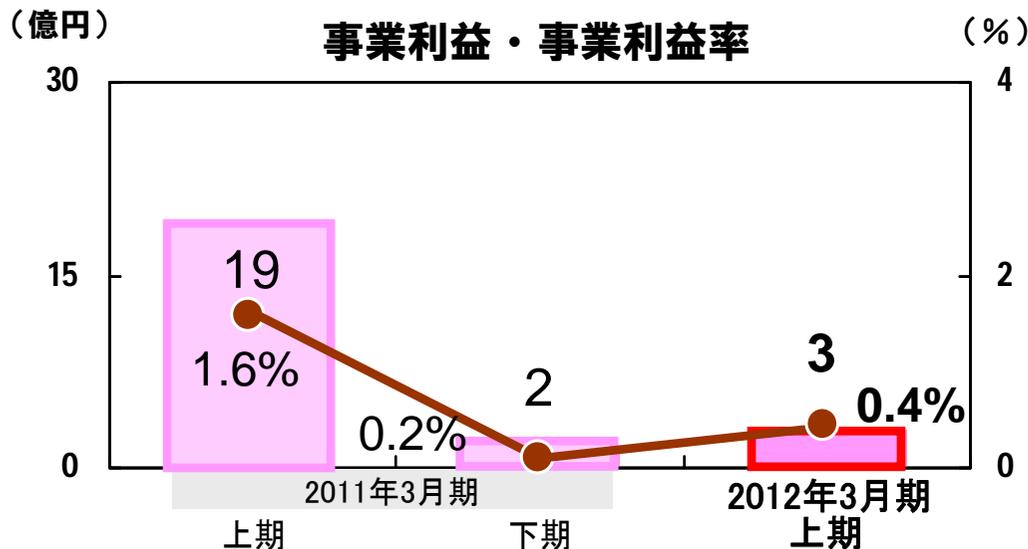
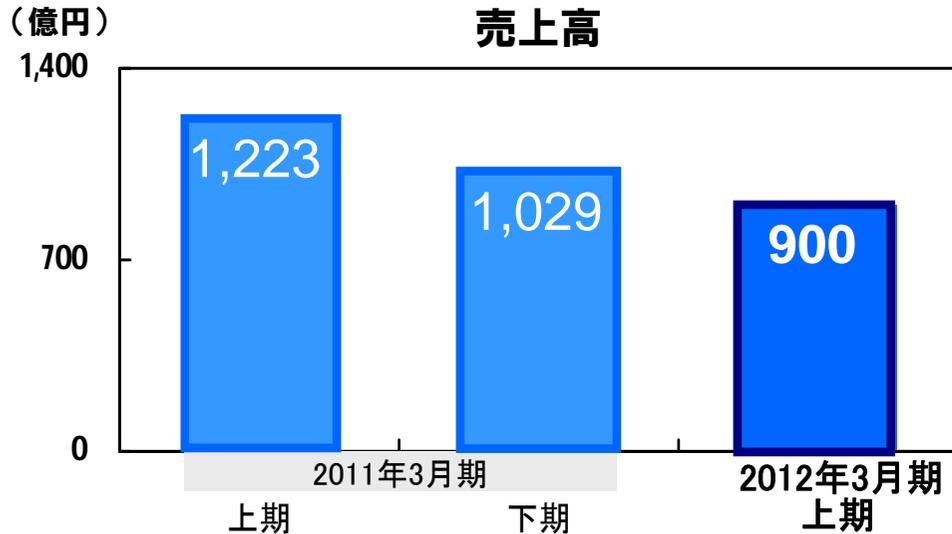
タンタルコンデンサ



タイミングデバイス

2012年3月期 上期 セグメント別業績推移

通信機器関連事業



2012年3月期 上期実績

	対2011年3月期増減	
	上期比	下期比
売上高	-323億円	-129億円
事業利益	-16億円	+1億円

業績概況

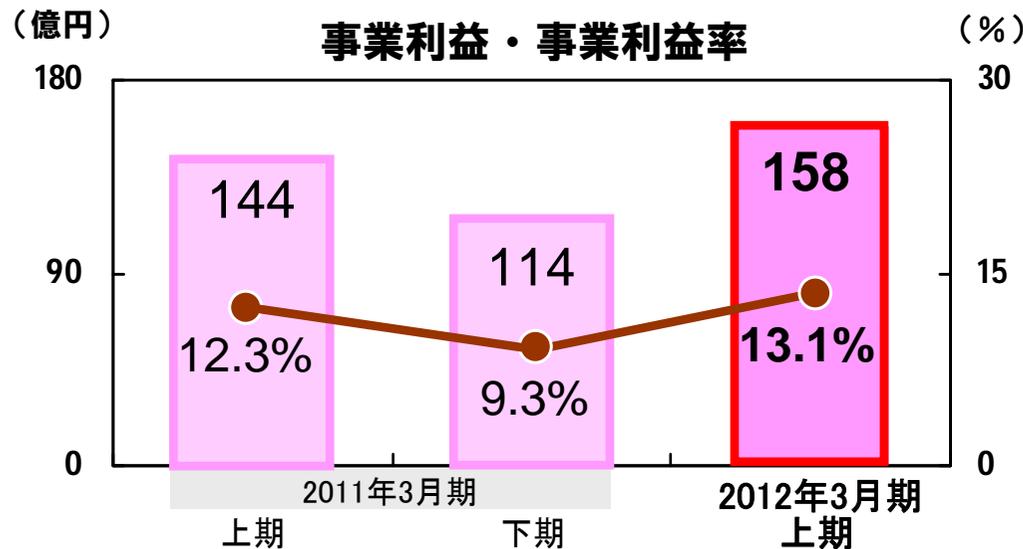
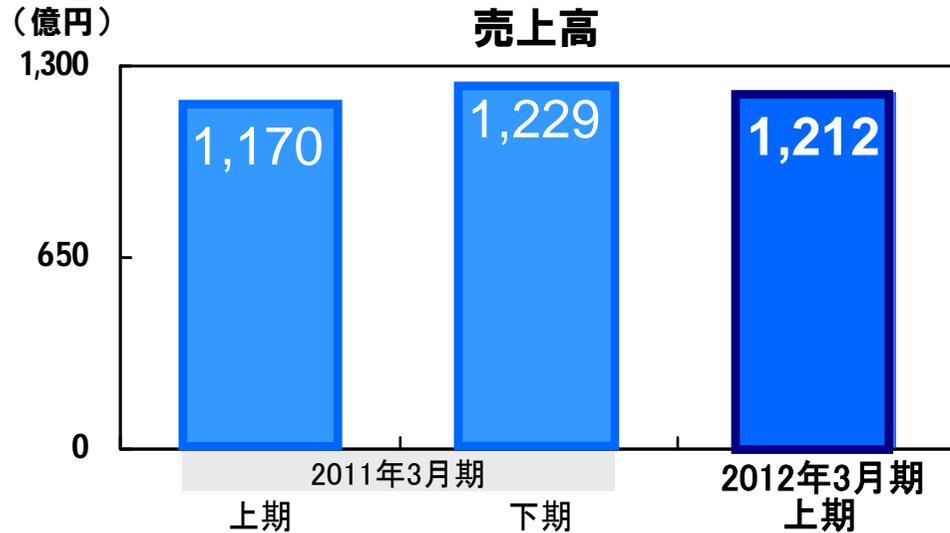
- PHS端末の販売は増加したものの、携帯電話端末の販売が、国内市場の低迷の影響や海外客先での伸び悩み、海外向け事業の一部見直しにより減少した結果、売上高は減少
- 売上高は減少したものの、原価低減や一部事業の見直しの効果により、当期上期も利益を確保



PHS端末
HONEY BEE4

2012年3月期 上期 セグメント別業績推移

情報機器関連事業



2012年3月期 上期実績

	対2011年3月期増減	
	上期比	下期比
売上高	+42億円	-17億円
事業利益	+14億円	+44億円

業績概況

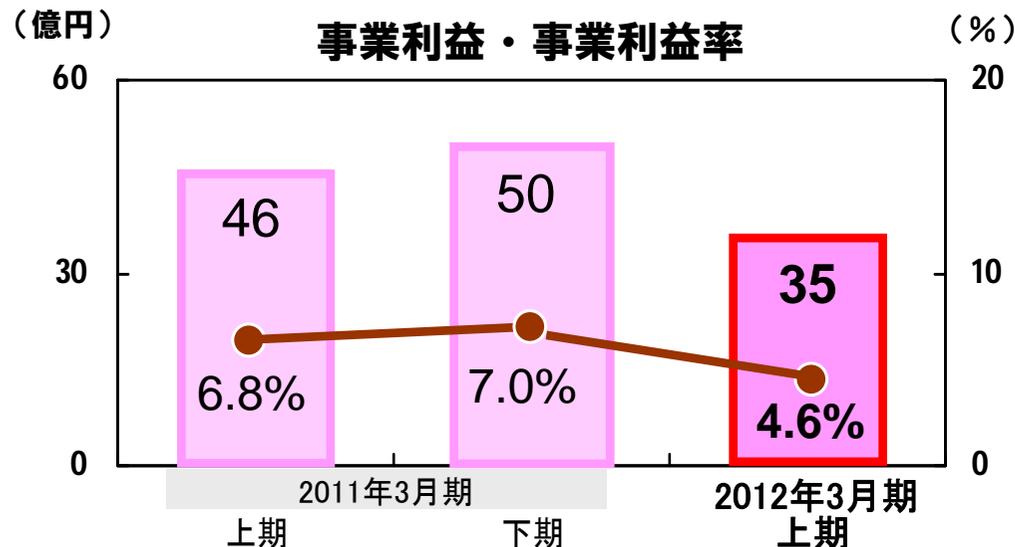
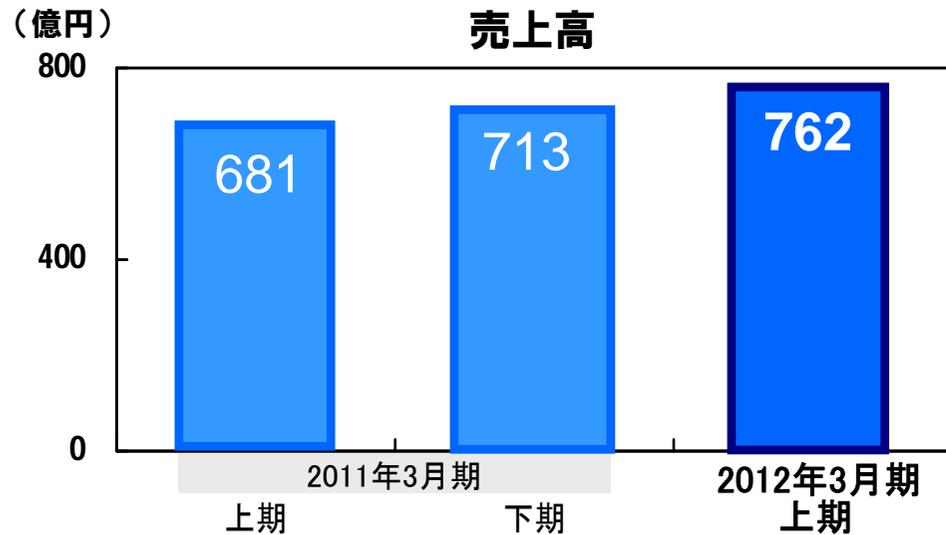
- カラーモデル等の新製品投入や新興国市場での拡販により、販売台数は増加傾向にあったものの、円高の影響により売上高はほぼ横ばいで推移
- カラーモデルの販売増加に伴い消耗品の売上が伸び、事業利益は増加



A4カラープリンター
FS-C5250DN

2012年3月期 上期 セグメント別業績推移

その他の事業

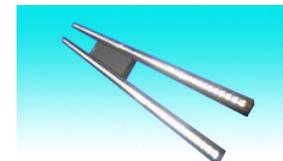


2012年3月期 上期実績

	対2011年3月期増減	
	上期比	下期比
売上高	+81億円	+49億円
事業利益	-11億円	-15億円

業績概況

- 京セラコミュニケーションシステム(株)のICT事業の拡大に加え、LED照明の売上貢献により、売上高は順調に増加
- 当期上期は、新事業への研究開発費の増加を主因に事業利益は減少



LED照明



(株)セブンイレブン・ジャパン様
LED照明設置例

2012年3月期 第2四半期(3ヵ月) 決算概要 (前年同期比)

(単位:億円)

	2011年3月期 第2四半期		2012年3月期 第2四半期		増 減	
	金 額	売上高比 (%)	金 額	売上高比 (%)	金 額	率 (%)
売 上 高	3,242	100.0	2,990	100.0	-252	-7.8
営 業 利 益	412	12.7	345	11.5	-67	-16.3
税引前四半期純利益	432	13.3	356	11.9	-76	-17.4
当社株主に帰属する 四半期純利益	321	9.9	220	7.3	-101	-31.5
平均為替レート	対ドル: 86円	対ユーロ: 111円	対ドル: 78円	対ユーロ: 110円		

➤ 為替変動による影響額 (前年同期比)

売上高 : 約-100億円
 税引前四半期純利益 : 約 -25億円

2. 2012年3月期 通期業績予想

2012年3月期 通期業績予想

(単位:億円)

	2011年3月期		2012年3月期				増減金額	
	金額	売上高比 (%)	前回予想		今回予想			
			金額	売上高比 (%)	金額	売上高比 (%)	前期比	前回予想比
売上高	12,669	100.0	13,600	100.0	12,300	100.0	-369	-1,300
営業利益	1,559	12.3	1,680	12.4	1,250	10.2	-309	-430
税引前当期純利益	1,723	13.6	1,800	13.2	1,400	11.4	-323	-400
当社株主に帰属する 当期純利益	1,224	9.7	1,120	8.2	870	7.1	-354	-250
希薄化後1株当たり当社株主に 帰属する当期純利益(円)	667.23	—	610.46	—	474.23	—	—	—
設備投資額	707	5.6	800	5.9	700	5.7	-7	-100
減価償却費	598	4.7	700	5.1	600	4.9	2	-100
研究開発費	495	3.9	540	4.0	470	3.8	-25	-70

(注) 2012年3月期業績予想の希薄化後1株当たり当社株主に帰属する当期純利益は、2012年3月期第2四半期の希薄化後の期中平均発行済株式数を用いて算出しています。
最終ページに記載の「将来予想に関する注意事項」にご留意ください。

2012年3月期 事業セグメント別売上高予想

(単位:億円)

■ 事業セグメント	2011年3月期		2012年3月期				増減金額	
			前回予想		今回予想			
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	前期比	前回予想比
■ ファインセラミック部品関連事業	763	6.0	860	6.3	830	6.7	67	-30
■ 半導体部品関連事業	1,747	13.8	1,900	14.0	1,590	12.9	-157	-310
■ ファインセラミック応用品関連事業	1,976	15.6	2,170	16.0	2,060	16.8	84	-110
■ 電子デバイス関連事業	2,426	19.2	2,550	18.7	2,240	18.2	-186	-310
部品事業 計	6,912	54.6	7,480	55.0	6,720	54.6	-192	-760
■ 通信機器関連事業	2,252	17.8	2,320	17.0	1,900	15.4	-352	-420
■ 情報機器関連事業	2,399	18.9	2,620	19.3	2,410	19.6	11	-210
機器事業 計	4,651	36.7	4,940	36.3	4,310	35.0	-341	-630
■ その他の事業	1,394	11.0	1,470	10.8	1,560	12.7	166	90
調整及び消去	-288	-2.3	-290	-2.1	-290	-2.3	-2	0
売上高	12,669	100.0	13,600	100.0	12,300	100.0	-369	-1,300

2012年3月期 事業セグメント別事業利益予想

(単位:億円)

■ 事業セグメント	2011年3月期		2012年3月期				増減金額	
			前回予想		今回予想			
	金額	利益率(%)	金額	利益率(%)	金額	利益率(%)	前期比	前回予想比
■ ファインセラミック部品関連事業	120	15.7	160	18.6	120	14.5	0	-40
■ 半導体部品関連事業	373	21.4	400	21.1	300	18.9	-73	-100
■ ファインセラミック応用品関連事業	291	14.7	295	13.6	145	7.0	-146	-150
■ 電子デバイス関連事業	416	17.2	430	16.9	330	14.7	-86	-100
部品事業 計	1,200	17.4	1,285	17.2	895	13.3	-305	-390
■ 通信機器関連事業	21	0.9	80	3.4	30	1.6	9	-50
■ 情報機器関連事業	259	10.8	260	9.9	260	10.8	1	0
機器事業 計	280	6.0	340	6.9	290	6.7	10	-50
■ その他の事業	96	6.9	70	4.8	80	5.1	-16	10
事業利益 計	1,576	12.4	1,695	12.5	1,265	10.3	-311	-430
本社部門損益等	147	—	105	—	135	—	-12	30
税引前当期純利益	1,723	13.6	1,800	13.2	1,400	11.4	-323	-400

2012年3月期 通期業績予想の主な修正要因

1. 世界経済の低迷による影響

デジタルコンシューマ機器、一般産業市場等、幅広い市場での需要見通しが期初予想を下回る

2. ソーラーエネルギー市場での環境悪化

期初の想定を上回る製品価格の下落、市場の伸び悩み

3. 為替前提レートの変更による影響

欧米通貨に対する円高基調の継続を予想

		下期予想			通期予想		
		前回	今回	変動額	前回	今回	変動額
平均為替レート	対ドル	79円	76円	-3円	80円	78円	-2円
	対ユーロ	112円	104円	-8円	113円	109円	-4円
為替変動による影響額(前期比)	売上高	/			約-330億円	約-530億円	約-200億円
	税引前当期純利益				約-80億円	約-145億円	約-65億円

2012年3月期 下期の重点施策

1. 企業体質の強化：徹底したコスト削減と生産性の向上促進

① 購買コストの低減

- 国内：円高を活用し、海外からの部材調達を拡大
- 海外：現地の部材メーカーの活用を促進

② 生産体制の効率化及び生産性の向上

- 国内外拠点での生産の集約、移管
- 生産体制に即した人員の適正配置
- 製造工程の短縮及び自動化の促進

2. 情報通信市場での事業拡大及び新市場開拓

- 国内市場へのスマートフォンの本格的な展開
- 新興国市場での情報機器の拡販

情報通信市場での事業拡大及び新市場開拓（1）

国内市場へのスマートフォンの本格的な展開

「DIGNO®」ブランドによる拡販

DIGNO
ISW11K



- WiMAX対応
- 高精彩有機ELディスプレイ搭載
- auの防水対応スマートフォンで最薄

新規キャリア獲得による販売増

HONEY BEE®
SoftBank101K



- ソフトバンクモバイル(株)様向けに初のモデル投入

情報通信市場での事業拡大及び新市場開拓（2）

新興国市場での情報機器の拡販

製品ラインナップの拡充

新興国固有のニーズに対応した製品展開

- ・ 必要最低限の機能を搭載
- ・ オフィスサプライ品等、各オフィス環境への適応



モノクロプリンター
FS-1110



モノクロ複合機
FS-1124MFP

販売チャネルの拡大

インド：事務機器販売事業の承継
(2011年8月)

ロシア：販売会社の設立
(2011年10月)



京セラミタ ロシア

中国：販売会社の拡充

ブラジル・東欧・中東・アフリカ：
販売代理店の開拓

補足資料

2012年3月期 上期 事業セグメント別売上高（前年同期比）

（単位：億円）

■ 事業セグメント	2011年3月期 上期		2012年3月期 上期		増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	率 (%)
■ ファインセラミック部品関連事業	367	5.8	420	7.0	53	14.5
■ 半導体部品関連事業	881	13.8	818	13.5	-63	-7.2
■ ファインセラミック応用品関連事業	956	15.0	907	15.0	-49	-5.1
■ 電子デバイス関連事業	1,236	19.4	1,158	19.2	-78	-6.3
部品事業 計	3,440	54.0	3,303	54.7	-137	-4.0
■ 通信機器関連事業	1,223	19.2	900	14.9	-323	-26.4
■ 情報機器関連事業	1,170	18.3	1,212	20.0	42	3.6
機器事業 計	2,393	37.5	2,112	34.9	-281	-11.7
■ その他の事業	681	10.7	762	12.6	81	11.9
調整及び消去	-140	-2.2	-134	-2.2	6	—
売上高	6,374	100.0	6,043	100.0	-331	-5.2

2012年3月期 上期 事業セグメント別事業利益（前年同期比）

（単位：億円）

■ 事業セグメント	2011年3月期 上期		2012年3月期 上期		増減	
	金額	利益率(%)	金額	利益率(%)	金額	率(%)
■ ファインセラミック部品関連事業	53	14.5	73	17.3	20	36.8
■ 半導体部品関連事業	185	20.9	179	21.9	-6	-3.1
■ ファインセラミック応用品関連事業	157	16.4	64	7.0	-93	-59.5
■ 電子デバイス関連事業	222	18.0	176	15.2	-46	-20.8
部品事業 計	617	17.9	492	14.9	-125	-20.4
■ 通信機器関連事業	19	1.6	3	0.4	-16	-82.9
■ 情報機器関連事業	144	12.3	158	13.1	14	9.9
機器事業 計	163	6.8	161	7.6	-2	-1.0
■ その他の事業	46	6.8	35	4.6	-11	-24.6
事業利益 計	826	13.0	688	11.4	-138	-16.8
本社部門損益及び持分法投資損益	76	—	74	—	-2	-3.3
調整及び消去	-7	—	-6	—	1	—
税引前四半期純利益	895	14.0	756	12.5	-139	-15.6

将来予想に関する注意事項

この資料に記載されている記述には、1934年米国証券取引所施行21E条に定義される「将来予想に関する記述」(forward-looking statements)が含まれています。かかる将来予想に関する記述は、現時点で入手できる情報に鑑みて当社が予想を行い、所信を表明したものです。これらの将来予想に関する記述は、既知及び未知のリスク、不確実な要因及びその他の要因を含んでいます。これらのリスク、不確実な要因及びその他の要因は以下のものを含みますが、これらに限られるものではありません。(1) 当社の主要市場である日本、北米、欧州及びアジアの経済状況。(2) 当社が事業を行う国及び地域における経済・政治・法律面の諸条件及びその想定外の変化。(3) 円高、政治・経済情勢、関税及び不十分な知的財産権等の保護等が当社製品の輸出に及ぼす影響。(4) 為替レートの変動が当社の海外資産の価値または製品価格に及ぼす影響。(5) 製品価格、技術革新、製品開発、品質、納期等の面における競争の激化。(6) 外部委託先や社内工程における製造の遅延または不良の発生。(7) 生産及び開発能力の拡大または現在進行中の研究開発が期待される成果を生み出さない事態。(8) 買収した会社または取得した資産から期待される成果や事業機会が得られない事態。(9) 科学技術分野等の優れた人材の確保が困難となる事態。(10) 当社の企業秘密が漏洩されまたは知的財産権が侵害される事態。(11) 当社が知的財産権侵害に関連する要求または特許実施許諾料の請求を受ける可能性。(12) 国内外の環境規制による賠償責任の発生及び関連費用の負担。(13) 想定外の法律もしくは規制の施行または法解釈の厳格化が当社の事業活動を制約する状況。(14) テロ行為、疾病の発生等が当社の市場及びサプライチェーンに及ぼす悪影響。(15) 地震等の自然災害及びこれに付随する災害によって当社の事業関連施設、サプライヤー及び顧客、並びに社会資本及び経済基盤等が甚大な被害を受ける事態。(16) 当社の顧客の財政状態の悪化により売掛債権の回収が困難となる事態。(17) 当社が保有する投資有価証券等の時価の下落に伴う減損処理の可能性。(18) 当社の長期性資産、営業権、無形資産の減損処理の可能性。(19) 繰延税金資産及び法人税等の不確実性。(20) 会計基準の変更。これらのリスク、不確実な要因及びその他の要因により、当社の実際の業績、事業活動、展開又は財政状態は、これらの将来予想に関する記述に明示又は黙示される将来の業績、事業活動、展開又は財政状態と大きく異なる場合があります。当社は、この資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。